

スピリットから生まれる

「本当のことを言いますが、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

私たちのタイトルである「御霊によって生まれる」と、冒頭の聖句に出てくる「新たに生まれる」という言葉は、イエス・キリストを個人的な救い主として受け入れた人の現在の状態を表すために、長い間クリスチャンによって使われてきた。また、多くの人は、このような主張をする人は、現時点での人生の行いに関係なく、失敗する可能性はほとんどないにせよ、死ぬときに天からの報いが保証されていると信じている。このような主張が決定的に重要であるはずなのに、「御霊によって生まれる」あるいは「新しく生まれる」とはどういうことなのかについて、それ以外の詳細を理解しようとするクリスチャンが比較的少ないのは驚くべきことである。

本文の言葉は、イエスがニコデモに語ったものである。ニコデモはパリサイ人であり、イエスとその教えについてもっと知るために、夜、師のもとにやっ

て来た。(ヨハネ3:1,2) ニコデモに対するイエスの言葉は、

聖霊、すなわち神の力によって成し遂げられる神の計画の重要な特徴に注意を促している。この神のご計画の特徴は、地上のすべての家族を祝福する父の王国でキリストとともに生き、治める者は、まず新しい命に「生まれ変わらなければならない」ということである。イエスは、その新しいいのちの特徴のひとつとして、風の目に見えない力を例に挙げられた。

ニコデモは、御霊によって生まれるというイエスの意味を理解していなかった。彼は尋ねた。「人は年老いてから、どうして生まれることができようか、二度目に母の胎内に入って生まれることができようか」(4節)。肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊である。(6節) ニコデモがこの説明を理解したかどうかは疑わしい。しかし、この説明は、イエスが論じている新しい命に関連する誕生という考えが、象徴的な意味でのみ使われているという事実を伝えている。ニコデモが示唆したように、文字通り二度目に生まれるために再び母の胎内に入ることではない。

聖書ではよくあることだが、ここでは偉大な真理を理解するために、言葉のあやが用いられている。born（生まれる）という言葉は、私たちの心に即座に新しい命を思い起こさせる。イエスは、聖霊の力によって、

、何人かが新しい誕生を経験することになる、と言っているのである。これは「肉から生まれる」人生とはまったく異なるものであり、そこに生まれる者は目に見えず、また力強いものとなる。聖霊、すなわち神の力によって生まれるのだから、彼らは神の霊の子となる。第1ヨハネ3:2

聖霊の誕生は、新生するために文字通り母親の胎内に入る必要を伴うものではないが、新約聖書のさまざまな著者は、主の聖別を受けた信者の心と人生における聖霊の働きのこの側面に言及する際、この比喻をかなり詳細に用いている。残念なことに、聖書の翻訳によっては、ほとんどの場合、著者が心に留めていたことを明確に示すことができない。そのため、人は肉にありながら御霊によって生まれることができるという誤った見解が生まれてしまった。この誤りから、"生まれながらのクリスチャン"という表現が生まれた。

新約聖書の時代に話されていたギリシア語では、生と誕生の両方を表す単語はひとつしかない。その言葉は「ゲンナオ」である。従って、イエスや使徒たちが使用した場合、文脈から、初生と誕生のどちらを指しているのか、
、場合によっては、新しい生命を誕生させる完全なプロセスを意味しているのかを判断しなければならない。

マタイによる福音書1章1節から16節にイエスの系図が記されている。「アブラハムはイサクを生み、イサクはヤコブを生み、ヤコブはユダとその兄弟たちを生んだ。この記述では "begat" という単語が39回使われているが、どの例でも begat と訳すのが正しい。この場合、明らかに begat が正しい訳である。アブラハムがイサクを産んだ」というのは、なんと奇妙な響きだろうか！この聖句の例は、人間の自然界では、男性が産み、女性が産むという事実を指摘している。新しい命が始まるには、どちらも必要なのだ。

別の例では、ギリシャ語の "gennao" という単語が二度使われており、同じ節で "born" と "begotten" の両方が訳されている。私たちは、神から生まれ

た者はだれでも罪を犯さないことを知っている。(1ヨハネ5:18)

一貫性を持たせるために、翻訳者は両方の例で

"begotten

"という単語を使うべきだった。そうしなかった唯一の理由は、訳語の繰り返しを少なくするためだったと思われる。

いま生まれ、復活のうちに生まれる

誕生の比喩の完全な意味を考えるならば、人は生まれるためには、まず生まれなければならないと結論づけなければならない。つまり、新しい生命を誕生させるためには、まず「生む」ことが必要であり、その後に妊娠期間があり、その間に胎児は栄養を与えられ成長し、適切な時期に誕生する準備が整うのである。このように、聖書には聖霊の二重の働きが示されている。イエスがニコデモに「あなたは新しく生まれなければならない」と言われたのは、神のみこころを行うことに全力を尽くす者たちに、復活のうちに新しい、より高次の生命を与えるという聖霊の完成された御業について語っておられたのである。ニコデモへの短い教えの中で、イエスは、誰かが御霊によって生まれる前に、まず御霊によって生

まれなければならないことを、詳しくは語らなかった。しかし、新約聖書の他の箇所では、これらの詳細が明確に記されている。

ヤコブ1:18)

これは重要な文章である。なぜならば、キリスト者の誕生は肉体的なものではなく、心や精神的なものであることを示すだけでなく、それは神によって成し遂げられるからである。(ヤコブ1:18)これは重要な文章である。なぜなら、この文章は、クリスチャンの身体的なものではなく、心と精神的なものであることを示すだけでなく、それが

"真理のことにによって"神の意志によって、成し遂げられたことを示すからである。ペテロ第一の手紙1章23節にも、これと同じことが書かれている。堕落した種からではなく、朽ちることのない種から、生き、永遠にとどまる神の言葉によって、生まれ変わるのです」。ここで、"gennao"は"begotten"と訳すのが正しい。

ペテロは

"種

"について言及している。自然な子孫繁栄の過程では、種によって成し遂げられるのは「誕生」ではなく「受胎」である。従って、使徒はここで、新しいのちの始まり、つまり「種」のことを指している

のであって、誕生によって完成することを指しているのではない。その種とは、"神の言葉"である。

私たちは、聖書に書かれている神の言葉はすべて、聖霊の靈感を受けていることを学んだ。旧約聖書の預言は、昔の聖なる人々によって

"聖霊の靈感を受けて"書かれた。(2ペテロ1:21) イエスの教えはすべて、聖霊によって彼の心と心が照らされた直接の結果である。使徒の著作も同様である。イエスは聖霊の到来に言及するとき、それを"真理の霊

"と表現した。(ヨハネ15:26；16:13) それゆえ、真理の言葉によって生を受けるということは、聖霊によって生を受けるということであることは明らかである。

これは重要な事実であり、この事実をはっきりと理解することは、多くのクリスチャンが抱いている、聖霊が信者の人生に直接入り込み、すべての罪から清め、決して恵みから落ちることがないと信じている考えから私たちを守る助けとなる。一度恵みにあずかると、常に恵みにあずかることができる」というのは、このような誤った考え方である。

ヤコブとペテロは、私たちに真の考えを与えている。それは、真理の御言葉を通して、信者の心と心に新しい命の始まりが起こるということである。それでは、神の言葉を読む者は皆、聖霊によって生を受けるということにならないだろうか。そうではない。この比喻をさらに考えてみよう。受精するためには、種を受け入れるためのすべての条件が整っていないなければならない。聖霊に生を受ける場合もそうである。多くの人が神の御言葉を読むが、その心や精神は生命を与える真理を受け入れることができない。

完全降伏

神の意志と神の言葉の聖なる衝動に全面的に降伏することが、真理の言葉を通して聖霊の生む力を真に受ける準備をするために必要な条件である。神聖な平面上で不滅の生命を獲得するために、少数の者がこの素晴らしい計らいを行うという神の役割は、神の霊の靈感を受けた御言葉、いわば種を供給することであった。神の計画のこの側面は、信者の思考に対する神の思考の力によって達成される。たとえ無限の力をもってしても、創造主は他の人の心に侵入し、新しい心の開発を始めることはない。

ここに、私たちの天の父の最も素晴らしい特徴の一つが反映されている。天地創造と人間が住むための大地の準備に関連して神の霊が水の面を動かされたとき、それは神の力の恣意的な行使であったが、キリストとともに生き支配する者たちの誕生においてはそうではなかった。主はその力を行行使して、これらの者たちに関する御心を表す御心を御言葉に込め、御心を知り、御心を行うために必要なすべての導きと助けが与えられることを保証されたのである。そして、御自分の摂理によって御言葉に接するようになった個人が、聖霊が御言葉を通して表現された御心に完全に屈服するかどうか、
、自発的に決断するのを待っておられる。

神はその尊い御言葉の中に、"栄光と誉れと不滅"に関する多くの素晴らしい約束を記録させておられる（ローマ2：7）。（ローマ2:7） 神は、これらの"非常に偉大で尊い約束"によって、私たちが"神の性質にあずかる者"とされることを明らかにされた。（2ペテロ1:4）
聖霊はイエスにこう言わせた。わたしがいるところに、あなたがたもいるためである。"
ヨハネ14:2,3ヨハネ14:2,3

神の御言葉を学ぶとき、私たちはこれらの約束に目を留め、その素晴らしさを実感する。私たちはまた、ペテロが「返還」、すなわち地上の生活への回復と表現している、神が人類の世界のために備えてくださった輝かしい備えを喜ぶ。この世が始まって以来、神の聖なる預言者たちは皆、「万物の復帰の時」を予告していたのであり、私たちはこれらの地上の約束の成就を待ち望んでいる。使徒言行録3:20,21

しかし、聖書の天の約束に到達するには、降伏と犠牲が必要である。天の霊的誕生に至る道は、「狭く」
困難なものである。(マタイ7:14)
イエスは言われた。"だれでも、わたしのあとに来ようとするなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従いなさい"。(マタイ16:24)
私たちはまた、私たちのからだを "生けるいけにえ"として捧げるようにというパウロの勧めも覚えている。(ローマ12:1) このような天の召命の条件は一見難しいように思われるが、私たちが忠実であれば、キリストと共に生き、キリストと共に治め、キリストと共に地上のすべての家族を祝福することが約束されている。黙示録20:4,6、創世記12:3、22:18、ガラテヤ3:8

天において神の神聖な家族の一員となり、来るべき神の王国において残りの人類を祝福しようとする人々にとって、神の御言葉に啓示された神の偉大な計画は、その神聖な建築家に対する評価を高め続けている。全世界の贖い主、救い主となるために御子をお与えになった神の愛は、このような人々から、御子に対するますます高まる愛を呼び起こすのである（ヨハネ3:16,17）。（ヨハネ3:16,17）人類のために苦しみ、死んでくださったキリストの愛は、彼らの心に深く深く届く。もし私たちが心の中にそのような崇高な思いを見いだし、それによって鍛えられるなら、パウロがそうであったように、私たちは「もはや（自分のために）生きるのではなく」、イエスのために、そしてイエスを世の救い主として遣わされた愛に満ちた天の父のために生きるべきであるという結論に達するだろう。第二コリント5:14,15

神の招きに応じて自らを神に委ね、神の霊に靈感された御言葉によって導かれるようになった私たちは、この条件を満たす人々に対する聖書の約束が私たちにも適用されることを知っている。天の住まいと神の性質についての感動的な約束は、以前のように、私たちから離れたもの、神の計画の興味深い特徴として見られるだけでなく、今や私たちの人生に生

命を与える影響力となる。神に委ねることで、種は一度に新しい命の希望を生み出し始める。私たちは"真理の言葉

"によって神から生まれたのだ。ヤコブ1:18

新しい命の奇跡

神だけが木を作ることができるように、すべての生命は、私たちの有限な頭脳では理解できない奇跡なのだ。私たちは生まれたばかりの赤ん坊の奇跡を目の当たりにして、実は両親がその子に命を与えたのではないことに本能的に気づく。彼らは、神が何千年も前に設計された、地球がやがて人間という被造物で満たされるための条件に従っただけなのだ（創世記1：28）。(創世記1:28)。もっと高い次元で言えば、これは真理の言葉によって神の子とされた者たちについても言えることである。これは神の偉大な奇跡のひとつであり、それに協力することは私たちの祝福された特権なのだ。

奇跡には、ほとんど瞬時に成し遂げられるものもある。イエスがマルタとマリヤの死んだ兄弟に「ラザロ、出てきなさい」と呼びかけ、死んでいたラザロが「出てきた」とき、それは短時間で行われた奇跡で

あった（ヨハネ11:43,44）。（ヨハネ11:43,44）しかし、宇宙全体に示された天地創造の奇跡は、長い時間をかけて成し遂げられた。聖霊の獲得と誕生の奇跡もまた、長い時間をかけて行われる。

産みの種、すなわち神の言葉を準備するために費やされた時間を考えてみよう。神の霊が奇跡的に聖書の執筆を導いたのだ。何千年という歳月が、こうして神の思想を、それが人間の心と頭に入り、熟慮され、読者の選択によって受け入れられ、あるいは拒否されるような形で記録することに費やされたのである。神は直接、人の心を神の考えで満たすことができたが、その考えが神から出たものだとどうやって知ることができるだろうか？その上、自分の心がロボットのように強制された考えで満たされていることに気づいたら、どんなに不愉快だろう。神の方法はなんと賢明なのだろう！神の奇跡を起こす力は、種となる者の心に入る準備として、その人の人生の状況を形作るために働いている。

神の御言葉を真剣に考えるようになるのは、神の助けが必要であることを悟ってからである。私たちの天の父は、その無限の知恵と愛の優しさにおいて、召された者が御言葉に耳を傾けることができるよう

に、御自身が召されたいと望まれる人々の心に最も効果的に触れる経験の種類を正確にご存知である。神の御霊による種子の準備がそうであったように、この御霊による受胎の準備の働きは奇跡的なものである。生まれたばかりの子供の誕生が奇跡であるように、神の計画のこの機能における神の役割は、あらゆる面で奇跡的であり、今も奇跡的である。

この目的のために神によって支配された人生の状況によって受容的な者とされ、神の御言葉を学び、そこに示された神の御心に人生を完全に委ねた者の場合、霊の誕生は確実である。神によってこのように扱われた者は皆、主に忠実であり続けるなら、"いのちの冠

"を受けるという確かな知識の中で、栄光と誉れと不死の約束を主張することができる。黙示録2:10

受精と誕生の図式に沿って、聖書は、胚の新しい命（

）が成長するにつれて、神の御霊が御言葉を通してそれを成し遂げることを明らかにしている。私たちの新しい霊的な心は、神の約束を糧とする。霊的な成長は、神に喜ばれるものであるならば、神のイメージに適合したものでなければならない。こうして神の御霊は、平和、喜び、寛容、愛というクリスチ

ヤンの実りの成長を促すのである。(ガラテヤ5:22,23;
2ペテロ1:5-7)

パウロは、この聖霊の働きについて美しい描写をしている。エペソ4:23,24

新しい命が誕生する準備が整うまで成長すると、私たちの墮落した肉体は死に至り、新しい命の誕生は復活によって成し遂げられる。(1コリント15:53,54) ここで、神の霊、すなわち力がさらに発揮される。パウロは、イエスを死者の中からよみがえらせるために、あるいは私たちが議論している象徴を使うなら、イエスの御霊の誕生をもたらすために用いられたこの強大な力について語る。パウロは「神を信じる私たちに対する神の力の驚くべき偉大さ」について語る。これは、キリストを死者の中からよみがえらせ、天の御国で神の右の座につかせたのと同じ力です。"エペソ1:19,20

ニコデモに語ったとき、イエスは復活の御霊によって生まれた者の特徴を説明するために風を使われた。(ヨハネ3:8) 風は目に見えず、力強い。真理の御言葉を通して御霊によってまず最初に生まれ、御言葉を糧として成長し続け、"聖徒の嗣業を分かち合う者

"となる準備が整うまで成長し続ける者は、皆そうである。(コロサイ1:12)

神の力は、これらの人々を天の命へと昇華させる。彼らは朽ちることのない不滅の天の体を与えられる。第1コリント15:40-44,53-58

キリストの血によって贖われるアダムの種族のすべてが、こうして天上の存在として生まれ変わるわけではない。イエスはニコデモに、生き直すためには生まれ変わることが必要だとは言われなかった。イエスが言われたのは、天にある神の国を見るためには、新しく生まれなければならないということだった。(ヨハネ3:3、マタイ4:17) それゆえ、この言及は、イエスの父が長い間約束しておられた王国で、天の支配者としてイエスと結ばれる人々を指している。どんな王国や政府にも、支配者と臣民がいる。イエスと現代の真の弟子たちは、神の国の支配者となる。そして、その人たちは新しく生まれ変わる。イエスは、人間から霊へのこの偉大な変化（）を最初に経験した。イエスの弟子たち、すなわち彼の真の教会は、時代の終わりの「最初の復活」において、この新生を経験する。(黙示録20:5,6) その時、回復された人間の命である神の回復の命の

約束が、天から地上のすべての家族に流れ出る。ヨ
ハネ3:14-17; 黙示録21:2-5